# 感染制御部

## 1．スタッフ

部長　中田 浩智（感染症専門医・ICD、准教授）
副部長　岡本 真一郎（感染症専門医・ICD、特任講師）
副部長　藤本 陽子（看護師長・感染管理認定看護師）
西村 直（感染免疫診療部助教）
山田 麻美（感染免疫診療部助教）
手塚 美奈（感染管理認定看護師）
吉田 真由美（感染管理認定看護師）
尾田 一貴（感染制御専門薬剤師）
近藤 昭志（抗菌化学療法認定薬剤師）
山本 景一（感染制御認定臨床微生物検査技師）
林 秀幸（感染制御認定臨床微生物検査技師）
福吉 葉子（副臨床検査技師長）
川越 尚樹（感染対策担当事務）
白野 文子（感染対策担当事務）

## 2．部の特徴

2016 年から感染制御部に組織改編され、専門知識を有した多職種によるインフェクションコントロールチーム（ICT）として院内の感染制御に関する様々な業務を行っている。ICT の最大の目標は様々な感染症から患者・家族・職員を守ることであり、そのために耐性菌発生時の対応・環境ラウンド・サーベイランス・職員の教育といった種々の活動を行っている。2018 年からは、抗菌薬適正使用を支援する活動 Antimicrobial Stewardship（AS）を開始し、同年７月からは抗菌薬適正使用支援チーム(AST) を設置し、血液培養陽性症例や難治例のモニタリング、および ICT コンサルトを通じて感染症診療の適正化を推進している。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザだけでなく、EKC（流行性角結膜炎）や感染性胃腸炎の増加もみられ、院内で伝播しないよう職員への注意喚起も速やかに行っている。

## 3．業務内容と実績

下記の 10 項目が主業務であり、2024 年度の実施内容について簡単にまとめた。

（1）医療関連感染対策に係る防止対策の基本方針に関すること。

院内 LAN サイボウズの感染制御部内に「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」など院内での取り決めを作成し、随時更新している。

（2）医療関連感染対策の教育の立案と実践に関すること。

全職員を対象とした院内感染対策研修会を年２回開催している。新型コロナウイルス感染症の流行は継続しているため、全職員を対象とする院内研修開催は中止し、e ラーニングによる受講とした。

1）2024 年７月（医療系）
「正しい CDI 検査について」
（林発表、e ラーニング 1,758 人受講）
第１回 AST 研修会
「周術期、術後感染予防抗菌薬の適正使用のための話題」
（尾田発表、e ラーニング 1,758 人受講）

2）2024 年７月（事務系）
「感染対策の基本　手指衛生
新型コロナウイルス感染症の流行は過去のこと？今、色々な感染症が流行しています」
（藤本発表、e ラーニング 467 人受講）

3）2024 年 12 月（医療系）
「理解だけでなく実践していますか？ 日常の手指衛生」
（吉田発表、e ラーニング 1,758 人受講）
第２回 AST 研修会
「抗菌薬使用量を減らしましょう」
（尾田発表、e ラーニング 1,758 人受講）

4）2024 年 12 月（事務系）
「感染症の多い季節がやってきた！
−かからない・ひろげない予防が大切です−」
（手塚発表、e ラーニング 467 人受講）

（3）インフェクションコントロールチーム（ICT）の業務に関すること。

毎週木曜日に ICT 会議、毎月１回の定例感染リンクスタッフ会議・感染リンクナース会議の開催、病棟ラウンド、各種サーベイランス、感染リンクナースの育成などを行っている。院内ラウンドは毎週定期的に実施し、病棟等水回りの清掃、手指衛生環境、注射作成環境、処置室、感染性廃棄物、感染情報の周知など、観察ポイントを決めて評価し、現場にフィードバックした。外来・中央診療部門のラウンドも行った。第 20 期となる感染リンクナース育成研修も ICT メンバーで実施している。

（4）医療関連感染防止に係る実施状況調査及び見直しに関すること。

感染対策の実施状況の調査は、各種サーベイランスによって院内のベースラインの状況を把握する

調査と、特定の感染症が増加した場合に行う臨時の調査に分けられる。サーベイランスに関しては、感染リンクナースを中心に手指衛生の実施状況調査やターゲットサーベイランス(SSI、CLABSI、ICU)を実施している。また2024年1月から開始した全入院患者サーベイランス(SSI、PVC-BSI、CLABSI、UTI、VAP)では、まだまだ入力漏れや間違いも多く、3か月毎にデータをフィードバックしながら精度があがるように支援していった。新型コロナウイルス感染症は2023年5月には5類感染症へ移行し、またクラスターの基準が変更(発生人数が5人以上から10人以上へ変更)になったことにより国内の流行の詳細が分かりにくい状況になったが、院内においても7件のクラスターが発生し、職員も327人発症した。またインフルエンザは前年度に続き職員は100人を超える(138人)陽性者が発生し、患者においては重症化する例がみられ、入院患者への標準治療を作成し診療支援を行った。

(5)医療関連感染対策や感染症治療へのコンサルテーションに関すること。
感染対策の問い合わせは感染管理認定看護師が対応している。感染症治療は医師や薬剤師が対応し、2024年度の受付件数は年間718件と、過去最多となった。

(6)抗菌薬適正使用推進プログラム(ASP)の構築と運用に関すること。
2018年7月からASチーム(AST)を設置し、感染制御部の医師やAST専従薬剤師が中心となり活動している。

(7)地域の他施設との医療関連感染対策に関すること。
感染対策向上加算に基づく加算1施設どうしの相互チェックを実施している。2024年度は、阿蘇医療センターを4職種(医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師)で訪問し、書面調査及び院内ラウンドを行い、その結果をフィードバックした。一方、当院は熊本市民病院からの訪問を受け、改善すべき点を指摘いただいた。また加算2取得の菊池郡市医師会立病院と加算3取得の九州記念病院の2施設と連携を継続して行っている。年4回のカンファレンス開催が施設基準として求められており、2024年度は全て対面で開催し、熊本県・市医師会、熊本市保健所など外部からの参加もあった。その内1回は新興感染症の患者がそれぞれの施設の発熱外来を受診した場合を想定して、机上訓練を行った。また、サイトビジットによる支援も、連携2施設にそれぞれ2回ずつの訪問を実施した。

(8)職業感染対策に関すること。
職員の抗体価検査やワクチン接種を実施している。また針刺し等による血液・体液曝露時の対応も行っている。2024年度の実績は下記の通りである。
・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種 349人
・インフルエンザワクチン接種1,933人
(実施率 67.3%) ※外部委託業者含
・B型肝炎、流行性4種ウイルス抗体価検査(対象者のみ)838人(実施率88.9%)
・流行性4種ウイルスワクチン接種(対象者のみ)316人(実施率 78.2%)
・B型肝炎ワクチン接種者(対象者のみ)490人
(実施率 75.6%)

(9)抗菌薬適正使用支援チームの業務に関すること。
広域スペクトラム抗菌薬や抗MRSA薬を指定抗菌薬とし、届出あるいは許可制としている。指定抗菌薬は、使用状況の把握、治療経過のモニタリングを実施しており、昨年度は週平均28.6人で、前年度(30.3人)よりも減少していた。AST介入は672件(受け入れ件数521件、77.5%)であり、前年度AST介入(654件)よりも増加していた。血液培養検査件数は5,711件、陽性件数635件、陽性率は11.1%となっている。九州内の国公立大学附属病院と比較すると、検体数、1,000患者あたりの件数ともにまだ少ない。また、指定抗菌薬投与1,488件に対し、投与前の培養検査未実施が141件(9.5%)と、前年度(11.1%)と比較してやや改善していた。血液培養検査検体は毎年増加傾向にあるが、抗菌薬投与前の血液培養検査2セットを含め、感染臓器を意識した培養検査を実施し原因菌の推定を行う事ができるように啓発が必要だと感じている。

(10)その他の医療関連感染対策に関し必要な事項。
その他にも、耐性菌サーベイランス、抗菌薬使用サーベイランスなどを実施し、その動向を経年的に観察し、実際の対策に活用している。